実行委員長ごあいさつ

震災後4年目に始まったこうべ1ウォークも、今回で16回目を迎える。一緒に歩いて寄付するというこのアイディアは、まだ若かった神戸復興塾のサンフランシスコNPO視察のお土産で、過程のイベントではなく、市民活動支援を目的す意気込みが斬新であった。全米約100都市で開催されるエイズウォークのなかでもサンフランシスコは最大級で、昨年は2万5千人が参加し、寄付総額は3億円に達したという。

第4回から有志参加型に切り替えたが、当初の心意気を次の世代に引き継ぐために、地元の皆さんの応援を得て5年前から市民への呼びかけを再開した。3年前から、東北の仲間も加わっている。

1ウォークの経緯は、神戸の伝統的な下町を辿っている。震災のため、古い市街地の面影は希薄になったが、住民の絆は消えていない。まちの復興はひとの復興だという教訓を、最後、この機会に噛みめていただきたい。

こうべ1ウォーク2014実行委員会
実行委員長　小森基児

しみん基金・KOBEごあいさつ

「こうべウォーク2014」へご参加頂き誠にありがとうございます。

東日本大震災からまもなく3年のという月日が経過します。被災地の「復興」には、まだこれからの長い道のりが予想されます。一方で、被災地外では記憶の風化が進んで、日常に追われる人が多いのが現況です。でもだからこそ、ボランティア活動による人と人の「絆」こそが、この状況を克服する最も大切な要件であると、わたくし共は考えています。

阪神・淡路大震災の教訓から、このような市民による自発的な助け合い活動を市民自らが支えていく仕組みとして、「しみん基金・KOBE」は誕生しました。以来14年間で延べ152団体に総額約5,400万円を助成し、これによって、地域における支え合いの連鎖を産み出してきました。これからも、人と人、人と社会、人と自然の「絆」を創り繋いでいくことが、当基金の使命と考えています。

ここでの募金は、経費を除いて当基金へ寄付され、毎年実施している助成事業を通じて、様々な分野の草の根市民活動団体へ助成させて頂きます。今後とも、何卒ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ
理事長　黒田裕子

⑩せせらぎ…まちづくり協議会の提案を受けて整備を進めてきたもので、東敦山の湧水を利用している。せせらぎの流れる歩道にはベンチを設置しており、市民が集う憩いの場となっている。

⑪シューズプラザ①…震災から長田のケミカルシューズ産業の復興と靴のまちながたの活性化を目指し、『シューズの元気は、神戸の元気だ！』をキャッチコピーに誕生。各種シューズ展や企画展を実施している。

⑫アジアギャザリー神戸…アジア雑貨の店が集まる商業ビル。約8千人のアジア系外国人が住む長田で、アジアとの共生をテーマにした中核施設として2009年7月にオープンした。

⑬水笠通公園…地域の防災公園(長田駅北地区震災復興土地区画整理事業)としての役割を持ち、「100t級防火水槽」が整備され、苦難の道のりを次代に伝えるために「震災復興の碑」が建立された。

⑭新長田駅北区画整理地区…震災前は、商業・業務施設やケミカルシューズ(軍足等)産業に進展し、靴底、機械、靴紐穴などが、地域内の分業でなされていた。1等の工場と点在する形で狭小住宅等が立地する住商工混在地域であったが、今回の地震で約8割の建物が大きな被害を受けた。
震災後は、そうした分業体制も解体化したが、今も靴紐の穴にとめる「ハトメ」の看板や、鋲所、底をつくる練型製物の工場などが残っており、自動車の下請けなど多様な仕事を請けている。東に行くと右手にアシックス(青い建物)も見かける。

①の場所は、トイレが利用できます。

⑮大国公園…震災による火災の延焼を防ぎ、地区の人々の避難所となった。倒壊した鳥居の石を使った記念像、震災直後の街の様子をステンレス板のプレートに焼付けた「協働のモニュメント」、「復興の基準点」がある。

⑯鷹取東区画整理地区…震災前は、商店街と軍足等からなる利便性の高い住宅地であったが、今回の地震ではほぼすべての建物が焼失するという大きな被害を受けた。

⑰カトリックたかとり教会①…多くのボランティアの拠点となった教会。震災で焼失したが、2007年4月に再建された。「ペーパードームたかとり」は台湾に移設された。NPO法人たかとりコミュニティセンターが多文化共生の拠点となり多くのNPOが活動している。

⑱野田北部まちづくり協議会…1999年3月の「コミュニティ宣言」後、まちづくりの機軸をハードからソフトへと移行し、地域をネットワークする組織「野田北ふるさとネット」を創設。(日にみえる)活動と(ひとづくり・仲間づくり・生活づくり)の思想でコミュニティでの(分かりやすい)まちづくりを目指している。

⑲若松公園…震災復興区画整理事業で整備された街区公園。住民の意見で道路を挟んで2つの公園が隣接する。道路を閉鎖すると一体化して大きく使える。頻繁に防災訓練が行われ、地域の防災拠点になっている。

⑳若松公園と鉄人28号…次項の新長田駅南再開発事業として、防災拠点とするために若松公園が大きく整備されている。公園内には、横山光輝氏の代表作の一つである「鉄人28号」が、体長18mという超ビッグサイズの鋼鉄製モニュメントとして2009年9月に設置された。

㉑新長田駅南再開発地区…震災により甚大な被害を受けた市街地の復興と防災公園等を中心とした防災拠点の構築、地域の活性化や街都心にふさわしい都市機能の整備を図るために実施され約8割が完成。未入居の商店が残っている。

㉒「航魂と復興のベンチ」(神戸の壁)…若松町の公設市場の防火壁は、神戸大空襲と大震災の火災に耐え、歴史の証人として「神戸の壁」と呼ばれ震災の象徴となった。再開発事業で移転が決まり、地中の基礎部分が椅子の形にデザインされ、「アスタくにづかり」の地下通路に展示されている。

㉓大正筋商店街…9割の店が全焼し壊滅的な被害を受けた。モダンな商店街として再建され、大正筋商店街もしい人情あふれるイベントが各種開催されている。大正時代の生活空間である土間と居間を再現した「大正ハイカラ進歩住夢幸」が開設されている。

㉔地域人材支援センター(旧二葉小学校)①…1929年に建設され、戦災・震災を乗り越えた地域のシンボルである旧二葉小学校が、NPO法人ふたばを指定管理者として、市民の地域活動への参加支援や地域活性化を担う人材育成の拠点として活用されている。震災関連の展示や神戸のむかし写真アーカイブもある。

㉕新湊川…震災後、多くのボランティアグループが川沿い公園に拠点をおき活動した。その後、2度にわたって川が氾濫したが、2009年に新湊川トンネルが改修された。

㉖御蔵通・西区画整理地区…震災前は軍靴長屋が残り市場・商店街や家内工業を中心とした中小規模の工場が立地する利便性の高い住宅地だったが地震で8～9割の建物が大きな被害を受けた。

㉗古民家を移築した集会所…吾妻町(現吾妻町)に建てられていた古民家を移築して作られた御蔵通5・6・7丁目自治会集会所。御蔵地区の住民たちの交流を深める場となっている。

㉘御蔵市公園…震災時、火災のひろがりを防止し、公園内に避難した人を火災から守ったクスノキがある。震災時は10mあったが、焼けた木の上部を切り取って8～8.5mとなっている。

㉙御蔵北公園…地域の方々で整備した公園で、この地域の120人がなくなった場所を示す地図が刻まれている「鎮魂」のモニュメントが設置され、焼け残った電信柱が保存されている。

㉚共同住宅「みくら5」①…12件が集まって建てた共同住宅。1階の地元企業の協力による「地域コミュニティスペース・プラザ5」を拠点に、まち・コミュニケーションはまちづくり活動を展開している。

㉛KOBE三国志ガーデン…阪神大震災後のまちおこしの一環として「三国志」をテーマとした展示施設の一つで、三国志演義をテーマとした「三国志ジオラマ館」「三国志体験館」「三国志交流館」「三国志庭園」の4施設から構成された五感で楽しめる複合型のミュージアム。

㉜震災ミュージアム…震災で芽生えた絆から助け合いの心をいつまでもとどめ、防災知識の普及啓発に努める場所として、また震災の記憶・体験・教訓を伝える拠点として整備された。

㉝KOBE鉄人三国志ギャラリー…観光客に街を回遊してもらおうと2009年12月にオープン。鉄人28号の製作映像の上映や、三国志に登場する軍師・諸葛孔明の等身大オブジェを展示している。

㉞六間道商店街…かつては神戸有数の繁華街だったが、周辺企業が撤退し大震災もあって店舗が減少した。「六間道お百度マイル」の取り組みや、横山光輝氏(「鉄人28号」の作者)の色紙を飾ける常設展示会場「六間道なごみサロン」、三国志をテーマにした新名所「戴武将廟」がある。

㉟丸五市場①…80年以上の歴史を誇り、伝統の仕入や加工・販売技術を持つ、こだわり専門店が多い。アジア系食品や物品を扱う店もあり、他の市場にない楽しい買い物の場だと評されている。昔ながらの下町の人情と温もりが残る市場。

㊱本町筋商店街…震災で多くの店舗が倒壊したが、「ビッグハート」をシンボルとして、ふれあいコンサートや長田こどもんまつり、陶芸教室・絵付け教室などのイベントを多数実施している。修学旅行生対象の絵手紙教室も好評。

㊲神戸協同病院①…震災では献身的に夜中まで診療にあたり、震災後の復興には地域住民と一緒にまちづくりに参加してきた。地域から頼られる存在になることを理念として、地域住民とコミュニケーションをとり、病院という枠を超えて地域のまちづくりに力を入れている。